

GYŌKAI

「明治第一の高僧」

福田行誠上人 廃仏毀釈より
日本仏教再興百五十年記念

「念仏三昧の聖者」

山崎弁栄上人 百回忌記念

行誠と弁栄展



2019.

5.11_土 — 19_日

【開館時間】土日:10時～17時／平日:14時～19時

@両国回向院 (会場:本堂三階)

〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目8-10

【交通】JR総武線両国駅西口より徒歩3分、
地下鉄大江戸線両国駅より徒歩10分

拝観料：無料

◆講演と法要 (会場はすべて回向院本堂／申し込み不要)
講演者やその他の詳細は下記HPへ

「廃仏毀釈～150年目の寺院消滅～」5月12日(日)14時～
鴫飼 秀徳氏 ジャーナリストで僧侶
著書『寺院消滅』や『仏教抹殺』など

「カトリックと弁栄聖者の普遍性」5月18日(土)14時～
加藤 智神父 カトリック川越教会司祭
元・英国国教会司祭

「行誠上人の生涯」5月19日(日)14時30分～
福田 行慈上人 行誠上人ゆかりの本誓寺住職
『平成新修福田行誠上人全集』監修者

「両上人追恩とリンちゃん供養法要」5月19日(日)16時～
両上人有縁の松戸の地で、痛ましくも命を奪われたリンちゃんの供養

お問い合わせ

aketamaster01@gmail.com
090-4340-1813 (担当金田)
<http://www.bennei.net/>



〔主 催〕山崎弁栄上人讃仰会・両国回向院
〔後 援〕在日ベトナム仏教信者会
〔事務局〕〒111-0022 東京都台東区清川1丁目8-11
光照院方(実行委員長 吉水岳彦)

BEN'NEI



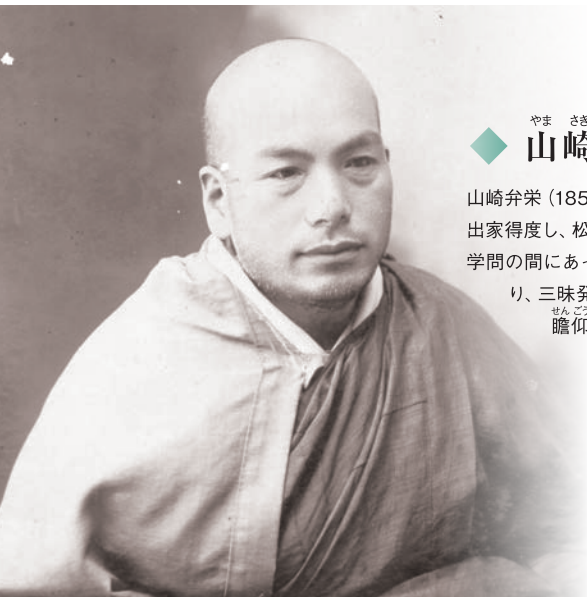
◆ 福田行誠上人 略歴

福田行誠（1809～1888）の出生については不明な点も多いが、浅草山谷生まれと伝えられている。幼少期に小石川伝通院で得度し、浄土宗に限ることなく広く仏教全般を学んだ。そのため、行誠は豊かな学識を具え、かつ勸声に念仏を申して、戒律も護持する行学兼備の大徳となり、後世に「八宗の泰斗」「明治第一の高僧」と評されるに至った。このような点からも、行誠がいかに修行と学問に対して真剣に打ち込んでいたかがうかがい知れる。また行誠は、江戸末期から明治維新まで両国回向院の住職を務めており、明治維新後の神仏分離令を誘引とする廃仏毀釈等によって混乱する仏教界のなかで、各宗派の管長との連携をはかり、中心的指導者として力を発揮する。加えて、僧侶の墮落こそが「益々廃仏の根基を培養する」と述べ、僧風の刷新と護法扶宗の努力を求める文章を遺している。のちに小石川伝通院や増上寺の住職を歴任し、総本山知恩院住職となり初代の浄土宗管長に就任した。近代を代表する傑僧として知られる。



◆ 山崎弁栄上人 略歴

山崎弁栄（1859～1920）は現在の千葉県柏市の農家の家に生まれ、二十一歳にして出家得度し、松戸の檀林東漸寺の大谷大康に師事。毎夜熟睡三時間の他は、雑用、学問の間にあっても、昼夜念仏一行を貫いた。明治十五年、筑波山に二ヶ月間籠もり、三昧発得する。その後、一切経を読了し、松戸市五香に善光寺を創建。釈尊瞻仰の思いより、当時としては極めて稀であったインドへ渡り、その遺跡を巡拝。その後、釈尊と法然の真髓を伝えるべく光明主義を宣布し、またキリスト教や西洋哲学思想、自然科学をも教学体系に取り入れ、時代相応の法を広く伝えた。大正七年、神奈川県当麻の無量光寺の住職となり、その庫裡にて光明学園を創立。光明主義を主唱した弁栄は「自分の主義は、活きた法然上人の意志を嗣ぎて、大ミオヤ（大御親・阿弥陀如来）の光明によりて、今の世の中の心が闇黒に迷っている人々を、明るい光明の中」へ導く、その一心に捧げた生涯であった。そんな弁栄の事を、縁者は「弁栄聖者」と尊称している。

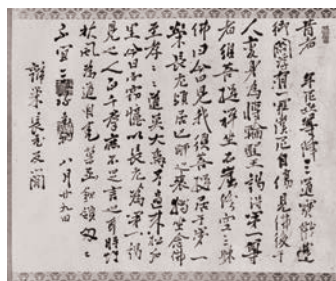


〔 行誠と弁栄の縁 〕

行誠の言葉に、今の僧侶は仏法的大海（釈尊の一切経）を泳ぐ大魚ではなく、水たまり（宗内の教義のみ）にいる「ぼうふら」であるとの痛言がある。日本仏教の現状を憂えた行誠にとって、廃仏毀釈の法難は看過できない事態であったと同時に、僧侶の覚醒と、仏法復興への好機としても捉えている。そんな中、三昧発得の聖者と讃えられ、また一切経を閲読する五十歳も若い弁栄の噂を行誠は耳にしたのである。行誠は弁栄宛の書簡の中で「第一謁見の人」（最も会いたい方）と記し、また、その頃に弁栄の事を詠じたと思われる行誠の和歌に「御ほとけの光まつ戸の里人は 後の世までもたのもしきかな」とある。行誠は「後の世までもたのもしき」「御ほとけの光」として弁栄の存在を心から喜ばれたのであろう。

また、行誠は弁栄に「天下の黒小僧になれ」との言葉を授けている。黒小僧とは、出世（名誉栄達）の道ではなく、「墨染めの聖者」と謳われた法然のような「野の聖」となり全国に法を伝える僧侶となって欲しいとのことであろう。行誠自身もその道を歩みたかったのであろうが、時代と人々がそれを許さず、最終的には総本山知恩院門跡にまで出世している。行誠は後の世の「黒小僧」の為に、そして法難と対峙するため、組織（僧伽）の先頭に立つという道を選択されたものと拝察する。行誠は遷化の直前、弁栄に「二十五条の袈裟」を贈っているが、自分が成し得なかった「黒小僧」の道を弁栄に託したのであった。

弁栄もまた、行誠のことを「明治の大徳福田行誠上人は誠に立派な御方であった。此の世の修行のみに依りてできたものではない、一に宿業がよかったのである」と過去世からの宿業の徳であると讃えている。



弁栄上人宛の行誠上人書簡



『百回忌記念墨跡仏画集』 価格:定価(本体 7000円+税)

山崎弁栄上人が染筆された墨跡と仏画を1000作品収録。

- *税(560円)込み、送料(800円)込みで、8360円となります。
- *平成31年4月20日前後に発行し発送開始致します。
- *「行誠と弁栄展」の会場でも販売致します。

〔 お申し込み 〕 aketamaster01@gmail.com 090-4340-1813(担当金田)

行誠と弁栄展

【福田行誠上人廃仏毀釈より日本仏教再興百五十年記念・山崎弁栄上人百回忌記念】

七十点の作品を展示予定。

その他、米粒名号や書簡なども展示します。

拝観料

無料

5.11^土
— 19^日

土日:10時～17時
平日:14時～19時

@両国回向院

(会場:本堂三階)

〒130-0026

東京都墨田区両国2丁目8-10

